

すぐに わかる えびののこと  
いっき わかい えびのんこつ



えびのの<sup>いのじょう</sup>飯野城に26年居城した

しま づ よし ひろ  
島 津 義 弘

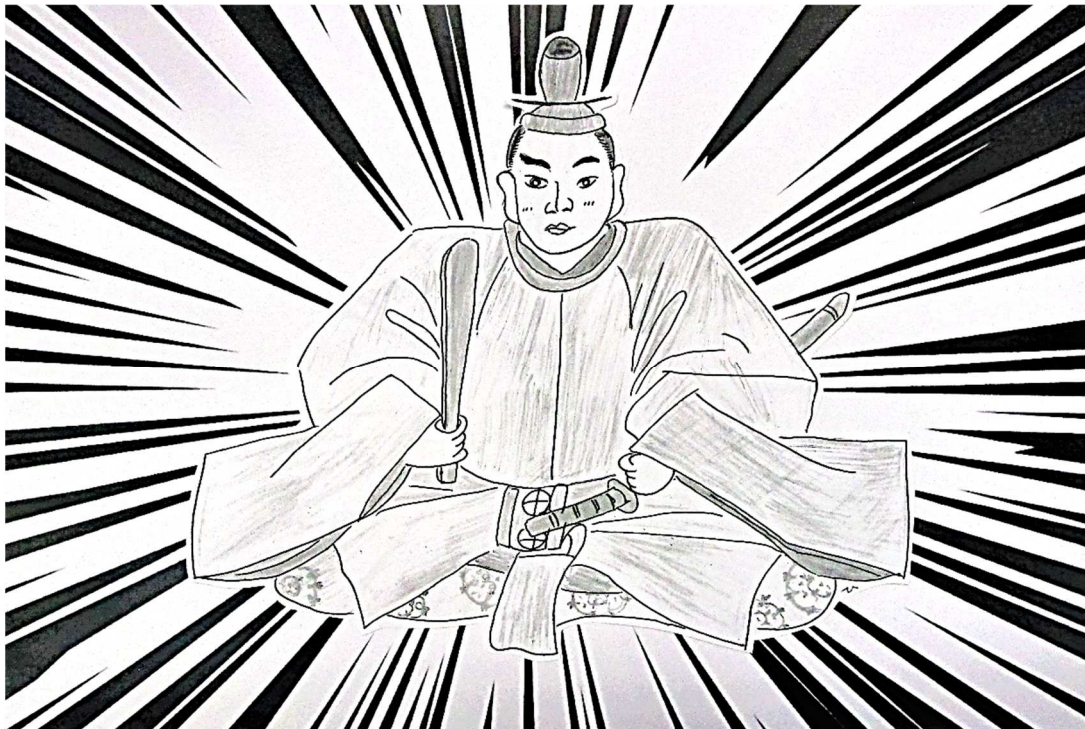


しまづよしひろこう どうぞう みち えき  
島津義弘公 銅像 (道の駅えびの)

し れ き し み ん ぞ く し り ょ う か ん  
えびの市歴史民俗資料館

もくじ  
目次

1. <sup>しまづよしひろ</sup>島津義弘はいつ<sup>う</sup>生まれたの? . . . . . 1
2. <sup>よしひろ</sup>義弘はどんな<sup>しょうねん</sup>少年だったの? . . . . . 2
3. <sup>いいのじょう</sup>飯野城に入ったのはいつ? <sup>はい</sup>何年<sup>なんねん</sup>いたの? . . . 3
4. <sup>き さきばるがっせん</sup>木崎原合戦って? . . . . . 4
5. <sup>き さきばるがっせん</sup>木崎原合戦<sup>え ず</sup>絵図 . . . . . 6
6. <sup>き さきばるがっせん</sup>木崎原合戦<sup>かん</sup>に関する<sup>しせき</sup>史跡 . . . . . 7
7. <sup>き さきばるがっせん</sup>木崎原合戦<sup>あと</sup>の後はどうしたの? . . . . . 8



しまづよしひろ う  
1. 島津義弘はいつ生まれたの？



むろまちじだい てんぶん ねん  
室町時代の天文4年

がつ にち さつ  
(1535) 7月23日、薩

ま いざくじょう しまづたかひさ  
摩の伊作城に島津貴久

じなん う あに よしひさ おとうと としひさ いえひさ  
の次男として生まれ、兄は義久、弟が歳久、家久

にんきょうだい  
の4人兄弟でした。

ようめい ただひら さい げんぷく  
幼名を「忠平」といい、11歳で元服して

またしろう あしかがしょうぐんよしあき  
「又四郎」、足利将軍義昭

よし さず  
から「義」を授けられ

よしまさ あらた  
「義珍」に改め、

てんしょう ねん  
天正15年(1587)

よしひろ な の  
から「義弘」を名乗ります。



※島津義弘の名乗りは幼名「忠平」から時代とともに変わりますが、ここでは「義弘」と記述します。

【室町時代】

あしかがし きょうと むろまち ばくふ ひら せいじ おこ じだい ねん ねん  
足利氏が京都の室町に幕府を開いて政治を行った時代。1336年～1573年。

(参考文献/『ベスト教科辞典 国語辞典』)

## 2. 義弘はどんな少年だったの？



すぐ くんしゅ い ちち たか  
優れた君主と言われた父(貴

ひさ えいきょう がくもん ぶどう  
久)の影響と、学問・武道ともに

すぐ そ ふ ただよし じっしんさい  
優れた祖父(忠義(日新斎))の

きょういく う そだ  
教育を受けて育ちます。

おさな ころ ゆうかん かっぱつ しょうねん よしひろ  
幼い頃から勇敢で活発な少年だった義弘を、

そ ふ ぶ ゆうえいりやく ほか けっしゅつ ひょうか  
祖父は「武勇英略をもって他に傑出する」と評価  
していました。

てんぶん ねん よしひろ ういじん  
天文23年(1554)、義弘は初陣の

いわつるぎじょう たたか しょうり かぎ  
「岩剣城の戦い」で、勝利を飾り

つづ かもうじょう ほういせん てき  
ます。続く蒲生城の包囲戦でも敵

ぶしょう う と しょうり こうけん わか  
の武将を討ち取るなど勝利に貢献し、若くして

もうしょう な とどろ  
猛将の名を轟かせるようになります。

ぶゆうえいりやく ほか けっしゅつ  
【武勇英略をもって他に傑出する】

ぶじゅつ すぐ かんが かつ ほか すぐ  
武術に優れ、いさましく、すぐれた考え方ができ、他からとびぬけて優れていること。

(参考文献/『ベスト教科辞典 国語辞典』・『広辞苑 第3版』)



3. 飯野城に入ったのはいつ？何年いたの？



よしひろ まさきいん げんざい  
義弘は、真幸院（現在の

し こばやしし いちぶ  
えびの市・小林市の一部）

りょうしゅ にん  
の領主に任じられます。



いいのじょうおおてもん  
飯野城大手門

えいろく ねん がつ いとうし せいりよく いい  
永禄7年（1564）11月、伊東氏の勢力から飯

のじょう まも すぐ へいし にん ひき さつま  
野城を守るため、優れた兵士60人を率いて薩摩

かせだ しゅつぱつ いいのじょう はい  
の加世田を出発し、飯野城に入りました。

ふじん か くとうじょう きよじょう ごなんいちじょ たんじょう  
夫人は加久藤城に居城され、五男一女が誕生

しました。

よしひろ さい さい ねんかん いいのじょう  
義弘は30歳から56歳までの26年間、飯野城

きよじょう  
を居城としました。



いいのじょうあと なが  
飯野城跡からの眺め

き さきばるがっせん  
4. 木崎原合戦って？



げんき ねん がつ にち よる ひゅうが くに  
元亀3年(1572)5月3日の夜、日向の国

げんざい みやざきけん しはい いとうし しまづ  
(現在の宮崎県)を支配していた伊東氏が、島津

りょうど いいの かくとう まさき しはい  
の領土である飯野・加久藤・真幸を支配しようと

やく ぐんたい み やまじょう こばやし  
約3000人の軍隊をひきいて、三ツ山城(小林

じょう しゅっぱつ  
城)を出発しました。

いとうぐん にぶたい わ かみめい いちぶたい  
伊東軍は二部隊に分かれ、4日未明、一部隊が

かくとうじょう せ お しっぱい  
加久藤城を攻め落とそうとしましたが失敗し、

いいの いけじま ひ あ いとうぐん ひと  
飯野の池島まで引き上げました。伊東軍のもう一

ぶたい いけじま きさきばる ごうりゅう  
部隊も池島の木崎原で合流しました。



かくとうじょう おおてもんあと  
加久藤城 大手門跡



かくとうじょう ほんまるあと  
加久藤城 本丸跡

いいのじょう よしひろ か くとうじょう こうげき う  
飯野城の義弘は加久藤城が攻撃を受けてい

し ぐんぜい ひき いそ か くとうじょう お  
ることを知り、軍勢を率いて急いで加久藤城に向

とちゅう いとうぐん  
かいました。その途中で伊東軍が

いけじま きさきばる ひ あ  
池島の木崎原に引き上げ

しゅうけつ ほうこく  
て集結しているとの報告が

はい か くとうじょう  
入ったので、加久藤城には

お いけじま きさきばる いとうぐん こうげき  
向かわずに池島の木崎原にいる伊東軍に攻撃を  
しかけました。

いとうぐん ぐんぜい しまづ ぐんぜい おお しまづぐん  
伊東軍の軍勢は島津の軍勢より多く、島津軍

ひじょう くる たたか  
にとって非常に苦しい戦いとなりました。しかし、



しまづよしひろ とうぞう みち えき  
島津義弘公の銅像 (道の駅えびの)

しまづぐん たいへん  
島津軍は大変

ゆうかん たたか  
勇敢に戦い、

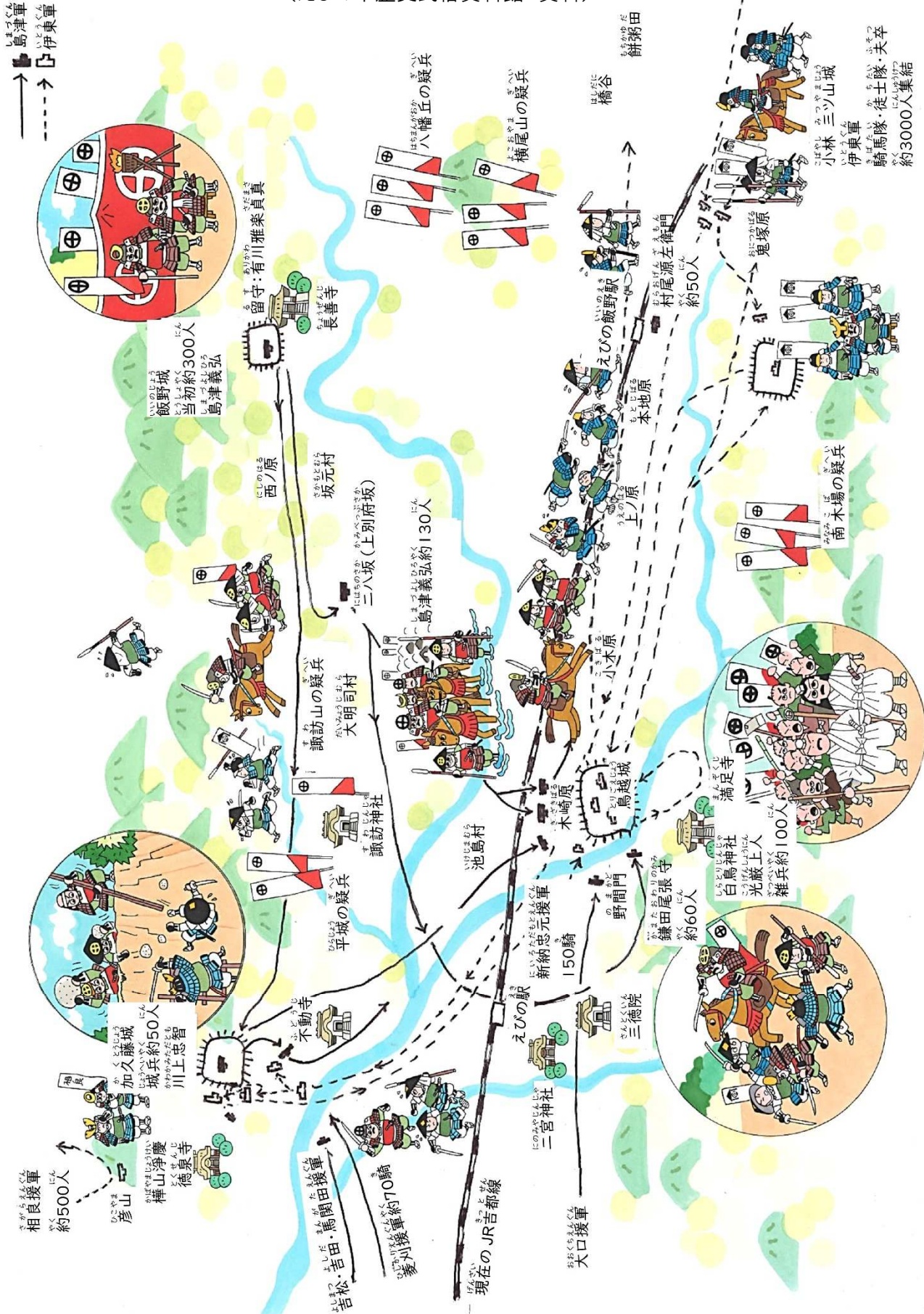
いとうぐん しょうり  
伊東軍に勝利し

ました。

# 5. 木崎原合戦絵図



(えびの市歴史民俗資料館 資料)





## 6. 木崎原合戦に関する史跡



### 木崎原古戦場跡

（県指定史跡 指定日：平成10年(1998)3月26日）

所在地 えびの市池島



#### ・「六地藏塔」

合戦の後、島津氏が敵や味方の差別なく島津、伊東両軍の戦死者を供養するために建立した塔。



#### ・「太刀洗川」

島津の将兵が、血刀を洗ったとされる小川。



#### ・「首塚」

伊東軍の戦死者の首を埋葬した塚。



#### ・「三角田」

合戦の最大の激戦地で、島津義弘が伊東新次郎を討ち取った場所とされている。



#### ・「元巢塚」

合戦後、伊東氏の霊を恐れた地元民のために、地頭の伊集院備前入道元巢が慶長18年(1613)に供養したという伝承がある塚。

き さきばるがっせん あと  
**7. 木崎原合戦の後はどうしたの？**



たたか あと しまづし さんしゅう ひゅうが おおすみ  
 この 戦いの後、島津氏は三州（日向・大隅・

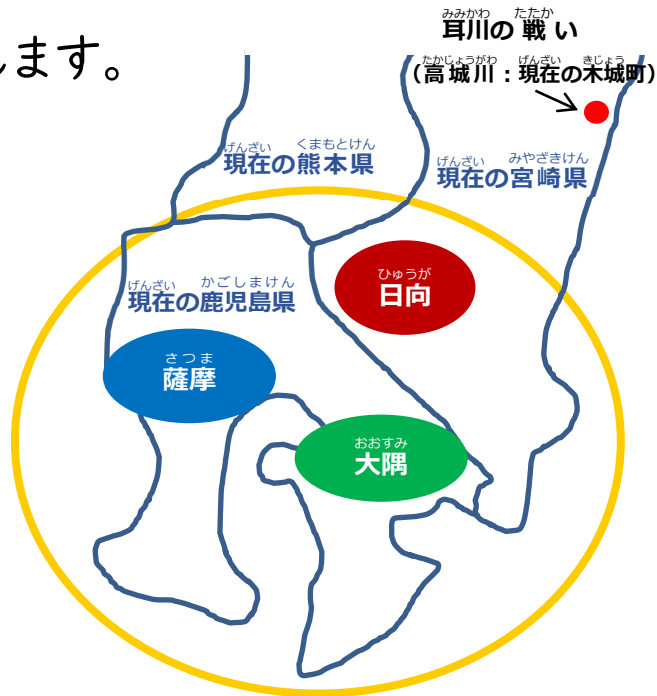
さつま どういつ ゆめ は  
 薩摩）統一の夢を果たします。

てんしゅう ねん  
 天正6年（1578）、

きたきゅうしゅういちえん おお  
 北九州一円に大きな

せいりよく も ぶんご くに  
 勢力を持つ豊後の国

げんざい おおいたけん  
 （現在の大分県）の



おおともし みみかわ たたか たかじょうがっせん しょうり  
 大友氏との「耳川の戦い（高城合戦）」で勝利し、

しまづし きゅうしゅういち せいりよく  
 島津氏は九州一の勢力となりました。



とよとみひでよし  
**豊臣秀吉**  
 (1536~1598)

おだのぶなが つか のぶなが  
 織田信長に仕え、信長  
 ぼつご てんかとういつ たっせい  
 没後、天下統一を達成  
 する。

てんしゅう ねん おだのぶなが か  
 天正15年（1587）織田信長に代

てんかとういつ めざ とよとみひで  
 わって天下統一を目指していた豊臣秀

よし きゅうしゅう どういつ のだ  
 吉が九州も統一しようと乗り出した

たたか しまづぐん ひでよし たいぐん こうふく  
 戦いに、島津軍は秀吉の大軍に降伏

りょうち さんしゅう ひゅうが おおすみ さつま  
 し、領地は三州（日向・大隅・薩摩）となりました。

（参考文献/集英社国語辞典 第二版）

てんしょう ねん  
天正18年(1590)

がつ よしひろ いいのじょう  
6月、義弘は飯野城より

くりの げんざい ゆうすいちょう  
栗野(現在の湧水町)の

まつおじょう うつ  
松尾城に移ります。



まつおじょうあと ゆうすいちょう  
松尾城跡 (湧水町)

ぶんろくがねん たいりく やぼう も ひでよし  
文禄元年(1592)大陸への野望を持った秀吉

にか いちょうせんしゅつぺい よしひろ しまづぐん つよ  
により、二回朝鮮出兵があり、義弘の島津軍の強さ



てきぐん おそ  
は敵軍からも恐れられました。

いっぼんすぎあと かくとうくりしたちく  
一本杉跡 (加久藤栗下地区)

「本伝庵」という寺の境内に一本の大杉がありまし  
た。義弘は加久藤城よりこの杉を眺めており、  
朝鮮の役では、この大杉を「馬幟」にしたといわ  
れています。(参考文献/史談会誌「えびの」49号)



けいちょう ねん せきがはら たたか  
慶長5年(1600)関ヶ原の戦い

しまづよしひろ ひき せいぐん  
で、島津義弘が率いる西軍の

しまづぐん とくがわいえやす とうぐん  
島津軍は、徳川家康の東軍に

かこ てったい  
囲まれます。撤退ができなくなった

しまづぐん と ほうほう とくがわほんたい  
島津軍が取った方法は、徳川本隊の



とくがわいえやす  
徳川家康

(1542~1616)

えどばくふしよだいしょうぐん けいちょう ねん  
江戸幕府初代将軍。慶長8年

(1603) せいいたいしょうぐん  
征夷大将軍となり、

えどばくふ ひら  
江戸幕府を開いた

(参考文献/集英社国語辞典 第二版)

しょうめん つ こ たいきやく てきちゅうとっぱ  
正面に突っ込んで退却するという「敵中突破

しまづ の ぐち よしひろ へい  
(島津の退き口)」でした。義弘は兵のほとんどを

うしな だっしゅつ せいこう  
失いましたが、脱出に成功しました。



よしひろ しょうがい かい かつせん しゅつじん せんごく  
義弘は生涯で52回の合戦に出陣した戦国

ぶしょう ちゃ ゆ いじゅつ つう  
武将であるとともに、茶の湯や医術にも通じた

ぶんかじん  
文化人でもありました。

げんな ねん がつ にち よしひろ おおすみ  
元和5年(1619)7月21日、義弘は大隅の

かじきやかた さい しょうがい と  
加治木屋形で85歳の生涯を閉じました。



よしひろ よ わか せきび  
義弘が詠んだ和歌の石碑

いけじま ちく  
(池島地区)

「いそぐなよ また急ぐなよ 世の  
なか さだ まる かせ ぶ  
中の定まる風の吹かぬかぎりは」  
せきがはら かつせん と き よ  
関ヶ原の合戦の時に詠まれたもの  
です。

やかた みぶん ちい たか ひと ひろ やしき  
【屋形】身分、地位の高い人の広くてりっぱな屋敷。(参考文献/『集英社国語辞典 第2版』)

参考・引用文献

<図書>

資料名	発行年	著者・編者	出版社・発行所など
1. 島津義弘はいつ生まれたの？(P1)			
史談会誌「えびの」第49号	2015年5月	えびの市史談会	えびの市史談会
ベスト教科事典 国語辞典	2000年12月	編/市川俊男	株式会社 学習研究社
2. 義弘はどんな少年だったの？(P2)			
史談会誌「えびの」第49号	2015年5月	えびの市史談会	えびの市史談会
島津義弘公の生涯（年表）	2017年2月	えびの市歴史民俗資料館	えびの市歴史民俗資料館
3. 飯野城に入ったのはいつ？何年いたの？(3P)			
えびの市史 上巻	1994年3月	編/えびの市郷土編さん委員会	えびの市
ふるさと散歩No.55（広報えびの）	2003年5月	えびの市歴史民俗資料館	えびの市
4. 木崎原合戦って？(P4～5)			
木崎原合戦	2019年 11月	えびの市歴史民俗資料館	えびの市歴史民俗資料館
5. 木崎原合戦絵図（P6）資料館資料			
6. 木崎原合戦に関する史跡（P7）			
えびのの文化財	2022年2月	えびの市歴史民俗資料館	えびの市歴史民俗資料館
7. 木崎原合戦の後はどうしたの？(P8～10)			
コミック版日本の歴史㊿ 戦国人物伝島津義弘	2013年9月	企画・構成・監修/加来耕三	ポプラ社
あい駆けよ～島津義弘 一熱血と慈悲の戦国武将一	2018年10月	三州同盟会議	三州同盟会議
親と子の学習まんが 宮崎平野の歴史下巻 日向国から宮崎県へ	2013年8月	シナリオ/南邦和 まんが/原口暁美	鉦脈社
史談会誌「えびの」第49号	2015年5月	えびの市史談会	えびの市史談会
島津義弘公物語	2020年3月	始良市教育委員会	始良市教育委員会
えびの市史 上巻	1994年3月	編/えびの市郷土編さん委員会	えびの市
ふるさと散歩No.55（広報えびの）	2003年5月	えびの市歴史民俗資料館	えびの市
集英社国語辞典（第二版）	2000年9月	編/森岡健二 他	株式会社 集英社



しまづよしひろこう どうぞう みち えき  
島津義弘公 銅像 (道の駅えびの)

発行/2023年 3月

し れ き し み ん ぞ く し り ょ う か ん  
**えびの市歴史民俗資料館**

〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司2-146-2 TEL/FAX 0984-35-3144

ホームページ



Twitter



Facebook

